

# 墨田区学校施設長寿命化計画（概要版）

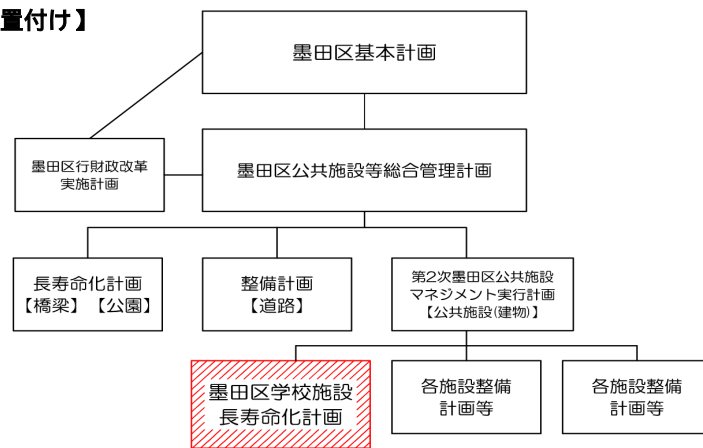
## 背景

墨田区の学校施設は、主に昭和40年代から50年代にかけて建築された区立小中学校が多く、その6割が築40年を経過しています。現在の施設の耐用年数を60年と想定した場合、今後、これに伴う施設の更新が一時的に集中することとなり、厳しい財政状況の中、限られた予算の中で学校施設の安全面や機能面の改善を図ることが、喫緊の課題になっています。

## 目的

本計画は「墨田区基本計画」の趣旨を踏まえた「墨田区公共施設等総合管理計画」及び「第2次墨田区公共施設マネジメント実行計画」に基づき、学校施設に求められる機能・性能を確保し、長寿命化を図り、長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減及び改修コストの平準化を目的に、「墨田区学校施設長寿命化計画」を策定します。

### 【計画の位置付け】



## 計画期間

本計画の計画期間は令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。ただし、本計画は「墨田区基本計画」における公共施設整備の考え方との整合を図る必要があることから、「墨田区基本計画」の改定に併せ、見直しを行います。

## 学校施設のめざす姿

### 1 安全・安心な学校施設の整備

学校施設は、子ども（幼児・児童・生徒）が多くの時間を過ごす学習・生活の場であるとともに、生涯スポーツの場や学童クラブ等の活用などの地域の拠点であり、災害時には地域の避難所となることから、バリアフリー化の推進など機能向上を図り、安全・安心で快適性に配慮した施設を整備します。

### 2 環境に配慮した学校施設の整備

施設の改築に併せて、太陽光発電、校内緑化、雨水利用、LED照明等の省エネルギー化等の環境配慮型施設を導入し、SDGsの実現に向けて地球環境に配慮した環境負荷の低減、環境教育の場となるエコスクールを目指します。

### 3 学校ICT化における学習環境の充実

Society5.0時代に生きる子どもたちの未来を見据え、GIGAスクール構想をはじめ、多様な子どもたち一人ひとりの資質・能力を最大限に伸ばし、育成する教育ICT環境（教育DX）を実現します。

## 改修等の基本的な方針

目標使用年数の設定

目標使用年数は、「建築物の耐久計画に関する考え方（昭和63年社団法人日本建築学会）」において、「鉄筋コンクリート造の学校施設の物理的な耐用年数は、適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに、技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である」とした考えを踏まえ、目標使用年数を80年と設定し、改築更新期間の平準化を図ることとします。

長寿命化の対象施設

学校施設のうち、躯体の健全性や劣化状況評価等に問題がない施設及び新耐震基準の施設については、原則、長寿命化の対象とします。

## 改築優先施設のグループ設定

改築優先施設グループの設定については、築年数や躯体の老朽度合いから、緊急度の高い順にA、B及びCの3つのグループに分類します。

今後の改築等の優先順位は、下記グループごとに、今後の状況を踏まえ、構造躯体の健全性、劣化状況評価、築年数等を総合的に判断し、原則Aグループの中で具体的な改築順を選定します。ただし、施設の劣化状況等により、長寿命化を図る場合と比べて改築がより効率的であると判断される場合は、Aグループにかかわらず、個別に検討します。

このほか、1クラス35人学級による教室の数や近年の児童・生徒数の増加等に伴い早期に対応が必要となる施設についても、同様にAグループにかかわらず、個別に検討し、原則一部改築又は増築工事とします。

### 改築優先施設グループ

#### A グループ

建築後50年程度を経過し、老朽化が進んでおり、今後改築の優先度が最も高い施設の集まり

#### B グループ

建築後50年未満、かつAグループに含まれない施設の集まりであり、Aグループの次に今後改築の優先度が高いもの

#### C グループ

建築年が新耐震基準以降の施設の集まりであり、Bグループの次に今後改築の優先度が高いもの

#### 評価項目

築年数

躯体の健全性（コンクリート圧縮強度を評価）

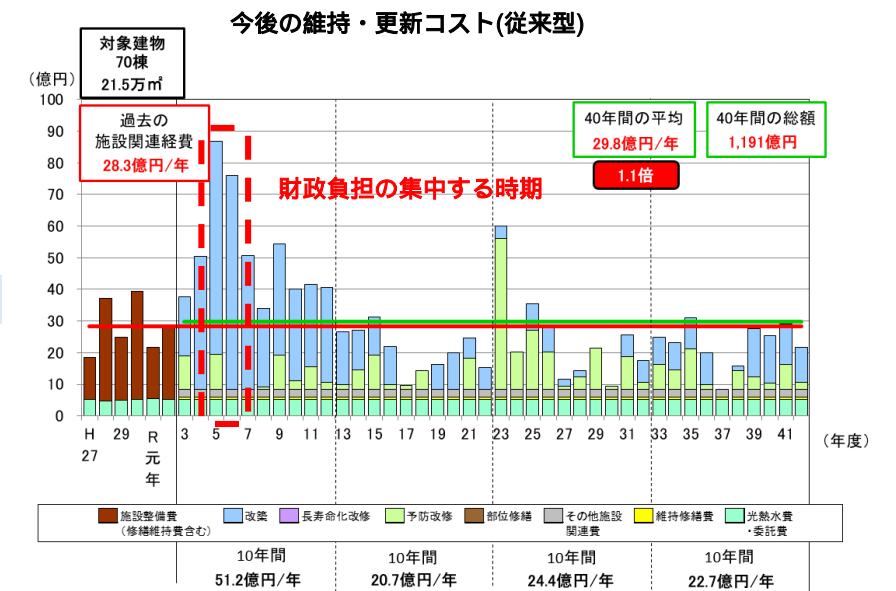
劣化状況評価（建築基準法に基づく点検結果を評価）

その他

## 今後の維持・更新コスト試算

長期的な施設の維持管理に係るコストを把握するため、「従来型」及び「長寿命化型」の維持・更新コストで比較します。

「従来型」とは、現在の施設の改築周期を60年として、施設の更新を実施していく試算方法です。試算結果では、直近3年以内が70億円以上/年となり、一時的に財政負担が集中するため、対応策を講じる必要があります。



「長寿命化型」とは、目標使用年数を80年と設定し、長寿命化改修を行う等の整備手法に転換する試算方法です。試算結果では、今後40年間の1年あたりの経費は、約31億円で、過去5年間の平均(約28.3億円)と同水準に抑えることができ、今後、予防改修や長寿命化改修の計画が少ない時期に計画的な施設の改築が可能となります。

